

劇場用映画 法定相続人（仮）改め

親のお金は誰のもの

「幸せの在り方」を問う、社会派コメディ

伊勢志摩田中組 映画製作通信

第4号

令和4年8月10日発行
発行 映画法定相続人
製作 製作実行委員会
発行責任者 橋爪吉生

メインタイトルが確定しました!!

映画タイトルが正式に決定!

「親のお金は誰のもの」

映画「法定相続人人生でいちばん影響を受けた本、それは銀行の預金通帳である（仮）」としてご案内してまいりましたが、この度、映画のタイトルが「親のお金は誰のもの」に正式決定致しましたことをご報告申し上げます。

企画からおよそ2年、2022年3月から6月にかけて三重県各所を中心に撮影を行い、現在は2023年春以降の公開に向けて作業場を東京のスタジオに移し、着々と編集作業を進めています。

三重県ロケその後に…

自然豊かな伊勢志摩での撮影を終えて三重県後にした映画クルーは、そのまま都市部に移動し、残りの映像を撮り終えました。

それまでの撮影は、ポラリティアサポートスタッフや地元のおもてなしも手厚かったので、どんどん上がる気温と湿度も相まって、大変だったのではないかと思います。この頃、スタッフさんの間でなにかと志摩の食事の話が上がったとか上がらなかったとか。

続いて報告を受けたのは、「特撮スタジオ撮影」が無事完了したということ。え？「特撮？お思いでしょうが、どのシーンの撮影かは、ぜひ映画館でお確かめいただければと思います。



今回映画にご協賛いただいた株式会社バツファローさんからご提供いただいたハードディスクなどを編集部や録音部などの映画の仕上げの現場などで使わせていただきました。心よりお礼申し上げます。

ここから本番！編集は一日にして成らず

6月下旬、セミオララッシュを迎え編集も佳境に入りました。編集と一口に言っても、映画の編集はここから同時進行で、アフレコを録り、コンピュータグラフィックや、グレイディング（色の調整）、劇中の音楽や効果音、本編集や、ダビングに移ります。アフレコで久しぶりに会う役者の皆さんとの再会。どんな作品ができるのか？皆さん、食い入るように映像を見ていました。沢山の方々の、才能を一つの映画に積み上げて行く。それが映画の醍醐味でもあります。



『映画の音楽』
物語の中で主人公の心情に寄り添い重要な役割を担う
8月某日、音楽レコーディングが行われました。映画の音楽は、主人公の心情に寄り添い表現する重要な役割を果たすパートです。今回の作曲は、作曲家富貴晴美さんにお任せしました。若手の作曲家でありながら、日本映画界では既に沢山の作品を手掛け、最近では、劇団四季のミュージカル「バケモノの子」を担当。本当に売れっ子の作曲家さんなので、今回の作品をどう膨らませていただけているのか、是非楽しみにしてください。



訪れた俳優やスタッフがのぼりに感動！
俳優やスタッフが街に繰り出すと必ず一度は目にしたという「応援のぼり」。ロケバスで移動するたびに、黄色いのぼりがお店の前や、道沿いに掲げられている。俳優スタッフは、「この街の人たちの想いに応える為にも、頑張らないと！」と口々に話していました。

映画の主演は？いつ頃の公開予定？等々ご質問をお受けすることがあります。製作発表ができる段階になった、真っ先に実行委員会の公式サイトやフェイスブック等で情報発信をさせていただきますので、引き続きチェックをお願いします！



映画法定相続人
製作実行委員会
公式サイト



映画法定相続人
製作実行委員会
公式Facebookページ



映画法定相続人
製作実行委員会
公式LINE

お問い合わせ先

映画「法定相続人」製作実行委員会事務局

連絡先（メール） suzoku@movies.gr.jp
電話 080-151103-113333